

【授業紹介／連携授業】社会福祉学科・看護学科

社会福祉学科と看護学科の2年生の連携授業が行われました。

このような連携授業は”ふくたん”独自の授業で、2014年から継続して行われています。今年度は、富山福祉短期大学ふくろう在宅クリニック医院長石田医師、訪問看護ステーションの服部看護師にも参加頂きました。

◆ 実際に地域の現場で活躍されている、射水市居宅介護支援事業者連絡協議会のケアマネジャーの方にもお越し頂き、貴重なアドバイスを頂きました。



* 連携授業の目的

- 社会福祉学科と看護学科の学生とのディスカッションを通して、社会福祉士、精神保健福祉士・介護福祉士、看護師それぞれの専門性や視点の違いを理解する。
- 多職種が連携しチームアプローチする際に必要なこと(知識、技術、心構え)を理解する。

- ◆ まずはグループに別れ、自己紹介。違う学科の学生との初めての、事例について話し合うグループワークに緊張気味です。



- ◆ 事例は、脳梗塞で片麻痺となった夫（80歳）と妻（75歳）と精神障害をもつ息子（グループホーム入所）が、地域生活するための支援についてです。

事例の確認のため、社会福祉学科の長井先生が 80 歳の夫役、看護学科の今川先生が妻役、学生が医療ソーシャルワーカーの役となり、退院について話をする場面をロールプレイしました。現場経験が豊富な長井先生の高齢者役がリアルでした。



- ◆退院に向けての支援についてグループ内で意見を出し合い、付箋を記入し、模造紙にまとめ、最後にグループでまとめた意見を、ポスターツアー方式で全員が発表しました。



- ◆多職種が連携し、お互いの役割を理解しつつ、問題解決に向けてチームアプローチ力を身につける経験は、今後それぞれの職種についた際、必ず役に立つことでしょう。普段の授業とは違う視点で学ぶことができ、大変有意義な時間になりました。

◆高校生の皆さんへ一言

ふくたんではこのように、学科を超えて学生達が、現場でご活躍の専門職から生のお声を聞きながら学びを深めるチャンスが一杯です★

是非、ふくたんのオープンキャンパスに参加して、先輩達や先生と交流して下さいね。お待ちしております!!